やっぱりキケン!

茗渓学園中学校
2年F組　元木皇太

動機

今年の茗渓学園の文化祭の日（6月2日）に記録的な大雨が降り、私の通学路にある橋が、河川の氾濫により、崩壊して、渡れなくなりました。初めての経験で、迂回しながらの登校は大変で、とても怖かったです。

私の家は、比較的高い所にあるので、水害とは無縁だと思っておりました。

しかし、最近よく耳にする、「線状降水帯」が発生すると、水害の危険度が著しく増すことが分かりました。

私が住んでいる所の近くには、大きな崖と、田んぼがあるので、大雨が降ったら、どんな災害が予想されるか。また、どこに、どのように避難したら良いのか。避難時の安全な場所、避難経路を探るために、調査しました。

目的

災害危険区域の場所を調べ、どんな災害が起こると考えられるか、また、その際の安全な避難経路を確認する。

調査方法

①資料をもとに作成する
インターネット上にある市の総合防災マップをもとに、危険な場所を確認する。

②現地調査
災害危険区域の写真を撮り、地図と比較する。

かすみがうら市東野寺地区の

基本情報

面積…1763155.447m²
人口…436人
世帯数…115世帯
（HP 国勢調査町丁・字等別境界データセットより）

私の自宅付近の地図→

避難場所

「新治小学校」が令和4年3月で廃校になってしまったので、看板の文字が消され、「新治児童館」が避難所になっていました。実際に使うのは、廃校になった新治小の体育館だそうです。

①この写真の道は、一車線の細い道路で、右側に、ブロック塀があり、地震が起きた際に、避難する場合は、ブロック塀が崩れる危険があるので、要注意です。また、ブロック塀が崩れると、自動車が通れなくなります。

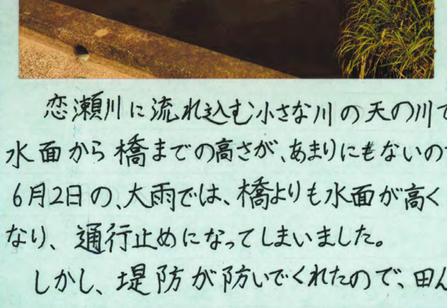
①のブロック塀が崩れたら
・・・・・・のルートで避難するが…

②この道は、①と違い、畑の中の舗装されていない道です。道の両側に、通行で形成された2つの大きな溝があり、あまりにも、溝が深すぎるので、車体に当たってしまい、自動車が通るのは難しいです。（現地調査の際、私の自転車が、溝の内側に傾いてしまい、転んで怪我を負いました。また、徒歩でも、歩きにくいので、通るときは、要注意です。）

③この道は、②と同じく、舗装されていない道なのですが、本来ならば、大通りに突き当たる道なのですが、草が生い茂っていて、車では通れません　また、道に明かりがないため、夜中に避難するには、危険だし、野生動物と遭遇しそうで、怖くて歩きたくないです。

①土がむき出しの崖
この写真は、見ての通り、土がむき出しの崖があります。上にも木が生えており、その木が、根を張り、崩れないようになっていますが、もしも、大雨や地震により、土が流れ出したら、木が倒れてしまうため、とても危険です。

恋瀬橋から見た恋瀬川
今は、氾濫していませんが、大雨や台風が襲来したとき、川の水が増水して、氾濫してしまう可能性があります。
しかし、両側に、土地が高くなっている提防がありますので、堤防までかなりの幅があり、相当の大雨でも大丈夫そうで、氾濫の危険性は低そうです。



②①の写真とは、違い、土がむき出しではありませんが、急な崖になっていて、木が崖に生えています。木が根を張って、土砂を支えているので、今すぐ崖が崩れる心配はあまりなさそうですが、台風が襲来したら、土砂が流れてしまうと、木が倒れて、崩れてしまう可能性があるため、危険です。

考察

この地域調査によって、私が住んでいる所は、川から約20mも高い所にあることがわかりました。しかし、自宅のすぐそばに、土砂災害特別警戒区域があることもわかり、大雨はもちろん、地震で地盤がゆるんだ所に雨が降り続いたら、土砂災害が起こる可能性があり、やはり、危険なのだとわかりました。今まで以上に、防災の意識が高まりました。

また、自宅付近には、舗装されていない道路や、ブロック塀があるため、自動車での避難は難しいと予想されるので、まずは自宅待機して様子をみます。避難所へ避難する際は、徒歩での避難を想定して、長ぐつなどの雨具も、しっかりと備えておく必要があると考え、早速準備しておこうと思いました。

この写真は峯下地区で発見した看板です。そもそも、急傾斜地とは、傾きが30度以上ある土地を示しており、つまり、崖のことです。この土地の形状を変更する際に、知事の許可が必要ということに驚きました。（急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律に定められています。）

恋瀬橋と同じように、天の川にも、堤防があります。この写真では、私の身長（約170cm）と堤防の高さを比べてみました。

写真から、私の身長は、約374mm、堤防の高さが、約476mmとなり、比の計算をして、約230cmと分かりました。思ったより、自分の身長より高くて、驚きました。

恋瀬川に流れ込む小さな川の天の川です。水面から橋までの高さが、あまりにもないので、6月2日の、大雨では、橋よりも水面が高くなり、通行止めになってしまいました。

しかし、堤防が防いでくれたので、田んぼへの被害はなく、大丈夫でしたが、堤防が決壊したら、大変です。